

第 1 回 生涯活躍のまち（伊達市版 CCRC）推進協議会

議事録

[開催日時] 平成 28 年 10 月 24 日(月)14:00～15:47

[開催場所] 伊達市役所保原本庁舎 2階 特別会議室

[出席者] (五十順、敬称略)

(委員)

在宅介護支援ネットワークおりの会	小野寺敏
福島学院大学福祉学部福祉心理学科 教授	日下輝美
パナホーム株式会社分譲事業推進部事業開発グループ	糸田和伸
株式会社東邦銀行 保原支店長	斎藤進
社会福祉法人伊達市社会福祉協議会 地域福祉課長	佐藤由美
一般社団法人伊達医師会 会長	中野新一
福島大学人間発達文化学類 教授	牧田実
伊達市保原地域包括支援センター 所長	森美樹
福島県県北地方振興局 次長	渡部美香

(伊達市)

伊達市副市長	鳴原貞男
伊達市健康福祉部長	渡辺義弘
伊達市健康福祉部参事	佐藤芳彦
伊達市健康福祉部社会福祉課長	桑島照之
伊達市健康福祉部高齢福祉課長	佐藤三雄
伊達市健康福祉部健幸都市づくり課長	半沢信光
伊達市建設部都市整備課長	渋谷徳夫
伊達市建設部都市整備課都市計画係長	佐藤陽一

(事務局)

伊達市市長直轄理事	半澤隆宏
伊達市市長直轄参事	宮崎雄介
伊達市市長直轄総合政策課長	佐藤時則
伊達市市長直轄総合政策課主幹兼地域創生係長	岡崎和也
伊達市市長直轄総合政策課主査	長谷川徳也
伊達市市長直轄総合政策課地域創生担当専門主査	芳賀欽也

(委託事業者)

株式会社三菱総合研究所	岩下将務
株式会社三菱総合研究所	田村隆彦
株式会社三菱総合研究所	赤木匠
株式会社三菱総合研究所	古市佐絵子
エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社	和田英子

[配付資料]

- ・ 資料1 生涯活躍のまち(伊達市版 CCRC)推進協議会設置要綱
- ・ 資料2 生涯活躍のまち(伊達市版 CCRC)推進協議会委員名簿
- ・ 資料3 日本版 CCRC の概要
- ・ 資料4 伊達市の現状と課題
- ・ 資料5 生涯活躍のまち(伊達市版 CCRC)の方向性
- ・ 資料6 今後の進め方
- ・ 参考資料1 日本版 CCRC 構想有識者会議「生涯活躍のまち構想(最終報告)」【概要】
- ・ 参考資料2 「生涯活躍のまち」構想(最終報告)
- ・ 参考資料3 伊達な地域創生戦略

1. 開会

- 事務局（佐藤時）より開会のあいさつを行った。

2. 委嘱状交付

- 事務局（佐藤時）：

次第 2、委嘱状を交付したいと思います。本日は仁志田市長が公務により不在なため、鳴原副市長よりお渡しいたします。
- 鳴原副市長より、小野寺敏氏、日下輝美氏、糸田和伸氏、斎藤進氏、佐藤由美氏、中野新一氏、牧田実氏、森美樹氏、渡部美香氏に委嘱状を交付した。

- 事務局（佐藤時）：

以上で、委嘱状の交付を終了いたします。ありがとうございました。それでは、次第の3、あいさつを仁志田市長に代わり、嶋原副市長より申し上げます。

3. 市長あいさつ

- 仁志田市長に代わって、嶋原副市長よりあいさつを行った。
- 嶋原副市長：

本来であれば仁志田市長から委嘱状を交付させていただくところですが、公務が重なり出席が叶いませんでした。仁志田市長に代わり、委嘱状の交付をさせていただきました。委員の皆様におかれましては、ご多忙のところ、生涯活躍のまち（伊達市版 CCRC）推進協議会の委員にご就任いただき、誠にありがとうございます。伊達市は、平成 28 年（2016 年）1 月に「伊達な地域創生戦略」を策定し、本格的に地方創生に関する取組を進めております。国の戦略で、東京への一極集中の是正、地方移住の推進の 1 つの手段として、日本版 CCRC 構想が掲げられているなかで、伊達市も人口減少、高齢化対策のために地方創生事業として伊達市版 CCRC を実施することは、有力な施策になると考えております。現在、全国 260 の自治体で生涯活躍のまちに関する取組が行われています。当市も伊達市版 CCRC 事業を重要な施策として位置付けており、今年度は、伊達市らしい生涯活躍のまちを具体化するための基本構想を策定することを目指しています。本協議会は基本構想の策定にあたり、専門的な知見やご助言をいただくために設置いたしました。そこで、皆様に 3 点ほどお願いを申し上げます。伊達市が目指す、安心して子育てができ、安心して歳がとれることを将来像とする健幸都市の理念を折り込み、伊達市版 CCRC の入居者を含め、地域住民の皆様が幸せに暮らすことができ、共に生きていくまちを作ることを大きな柱といたし、このことを念頭においてとりまとめたいと考えております。2 つ目は、伊達市の地域資源である観光と農業について、伊達市は歴史観光に注力しており、伊達政宗の初陣祈願の地として知られている梁川八幡神社や高子カ岡館跡といったすばらしい歴史遺産があります。また、果樹を中心とした豊かな農作物とともに、豊かな農村環境も伊達市の強みの一つです。伊達市民の誇りであるこれらの財産を伊達市版 CCRC に生かせないかと考えております。3 点目は、生涯活躍のまち日本版 CCRC は単なる福祉施設ではなく、老若男女、障害の有無に関わらず、共に支え合い、共に生き、将来に渡って持続可能なまちとしての機能を有するものと考えておりますので、まちづくりの観点で幅広い議論をいただきたく、お願い申し上げます。伊達市版 CCRC への取組が福島県のモデル、ひいては全国的なモデルとなるよう期待しておりますので、今後ともご協力いただきたく、あいさつに代えさせていただきます。

4. 自己紹介

- 事務局（佐藤時）：

本協議会は、委員総勢 9 名で構成しております。次第裏の出席者名簿の順に自己紹介をお願いいたします。

～自己紹介～

5. 座長選出

- 事務局（佐藤時）：
資料1「生涯活躍のまち（伊達市版 CCRC）協議会設置要綱」第5条第2項で、会議では座長を置き、仁志田市長が指名すると規定されております。座長は牧田委員にお願いいたします。座長の牧田委員は正面の席へお移りください。就任された牧田委員より簡単なごあいさつをいただきます。
- 牧田委員：
座長に就任いたしました牧田です。CCRCは耳なじみがなく、正直なところ私もよくわかっていない面がありますが、できるだけいいものにしたいと思います。協議会ということなので、何かを決めるといっても、自由闊達な議論を行える場でありたいと思いますので、皆様の知見、日ごろの活動や経験を元にした率直なご意見をいただければと思います。以上を持ちまして就任のあいさつに代えさせていただきます。
- 事務局（佐藤時）：
鳴原副市長は所用によりここで退席させていただきます。
（鳴原副市長退席）
これより議事に入ります。以降の進行は「生涯活躍のまち（伊達市版 CCRC）協議会設置要綱」の第5条第3項に記載のとおり、牧田座長にお願いいたします。

6. 議事

(1) 職務代理者の指定

- 牧田委員：
議事6（1）職務代理者の指定については、座長が指名すると規定されておりますので、日下委員にお願いいたします。

(2) 会議の公開について

- 牧田委員：
事務局より説明をお願いします。
- 事務局（長谷川）：
本会議は、会議録作成のために録音させていただきます。会議録は、公正で透明な会議運営のため、また市民の協力を得るため、発言された委員のお名前を含めて、市のホームページで公開いたします。

(3) 基本構想・調査業務について

- 牧田委員：
事務局より説明をお願いします。
- 事務局（長谷川）より資料1、資料2の説明を行った。
- 事務局（三菱総合研究所田村）より資料3、資料4の説明を行った。
- 牧田委員：
委員の皆様、何かご意見がございましたら、発言をお願いします。

- 斎藤委員：

CCRC とは直接関係がないかもしれませんが、伊達市の出生率が低いことについては、どういう原因が考えられますか。
- 事務局（宮崎）：

明確な分析はできていないのですが、子どもを産むタイミングで近隣の自治体へ転出してしまうことが原因の1つではないかと考えています。伊達市では第3子以降には出産祝金 50 万円を支給していることもあり、子育て政策に特段の問題があるといった認識はありません。近隣の自治体に転出するケースは首都圏でも見られますが、特に家を持つタイミングでの転出が考えられます。伊達市の場合は、通勤や通学を見越して、移動手段に問題があると考えて伊達市から転出してしまっているのではないかと考えられます。
- 小野寺委員：

資料3のP.9「Ⅱ. 立地・居住環境」にある「④生活支援コーディネーター」との兼任とは何でしょうか。
- 事務局（宮崎）：

CCRC の生活全般のコーディネートには、毎日の見守りや、入居者の相談相手となるといった役割を含むため、介護保険制度の「生活支援コーディネーター」との兼任も考えられるということです。
- 中野委員：

伊達市だけでなく、伊達郡を含めた県北医療の問題があります。たとえば救急医療の面では、伊達市だけで完結できる状況ではなく、県北という広域で対応を検討していますので、そういった事情もご理解いただきたいと思います。伊達市版 CCRC ということですが、医師会の立場としては、広い立場から考えていただきたいと思います。
- 牧田委員：

領域によっては、広域連携の発想も必要となります。
- 事務局（宮崎）：

伊達市から他市の医療機関へ行くケースはあると思いますし、その逆もあって、また、介護も同じ状況かと思います。そういった意味では、1つの自治体の中で完結しないことは重要なことですので、連携については他の行政機関とも相談する必要があります。ただし、基本構想をまとめてから相談するかどうかなど、どのタイミングで相談するかは検討したいと思います。
- 中野委員：

福島県内ではどのくらいの自治体が CCRC を検討しているのでしょうか。
- 事務局（宮崎）：

福島県内では、あくまで考えている段階の自治体はあるようですが、具体的に検討を始めている自治体は承知しておりません。
- 桑田委員：

入居者は、首都圏から呼び込む想定でしょうか、それとも近隣の自治体などからでしょうか。市の

お考えを教えてください。

- 事務局（宮崎）：
基本的には首都圏から呼び込むことを念頭に置いています、伊達市内を含め近隣自治体にお住まいの皆様を対象としないという考え方ではありません。
- 牧田委員：
残りの資料の説明をお願いします。
- 事務局（三菱総合研究所田村）より資料5、資料6の説明を行った。
- 牧田委員：
資料5と資料6の内容について、委員の皆様から一言ずつご意見を頂戴できればと思います。
- 小野寺委員：
伊達市に移住していただくにあたっては、入居者は収入源や安定した住居を検討しなければならず、それらのキーパーソンが生活支援コーディネーターではないかと思えます。生活支援コーディネーターの地域包括ケアとの兼任については、負担が大きくなりすぎてしまうのではないかという懸念があります。
- 日下委員：
私は、高齢者のための住居ではなく、大学生も住むことができる異世代居住型を望みます。伊達市のような自然豊かなまちに若者が住める環境ができれば、本学の学生が入居者と交流事業ができるのではないのでしょうか。また、都心の学生が経済的な理由で大学を退学する学生がいると聞いています。伊達市に移り住み地域のコミュニティビジネスとして、学生が介護のアルバイトができれば、より効果があるのではないかと思えます。生涯学習では、高齢者の方が聴講生として無料で私の授業を聴講されることもありますので、そういう面でも入居者の方と交流できるとよいと思えます。
- 中野委員：
医師会としては、平成27年（2015年）時点で、救急車の搬送が伊達市や伊達郡では処理しきれていないという現状があります。また、医師数も十分でないという状況ですので、伊達市版 CCRC を進めるには人材確保が一番の問題となるのではないかと思えます。
- 桑田委員：
伊達市に来ていただくには、伊達市の魅力を考える必要があります。首都圏において、伊達市の知名度が特別高いということはありません。広域から入居者を呼び込むのであれば、住みたいと思えるよう、観光名所に加えて伊達市版 CCRC の特長が必要になると思えます。
また、高齢者の方にも働いていただくということが日本版 CCRC の資料に書かれていますが、その点は伊達市ではどうかと考えると、環境の整備が必要です。最近では、高齢者の方が移住して、その子どもが近居するという潮流もあります。福島県内に暮らす子ども世代と一緒に住めるなど、世代交流ができるとよいのではないのでしょうか。高齢者だけを呼び込んでも、シニアの街と呼ばれてしまうかもしれません。保育施設とも絡めて、伊達市版 CCRC を進めていければよいのではないのでしょうか。

- 斎藤委員：

「ゆいま〜る那須」の入居用件を見たところ、一時払いで1,100万円から、更に毎月3万円〜5万円と、結構な金額になっています。これだけのお金をかけて、伊達市版 CCRC に来ていただくためには、インセンティブをしっかりと示す必要があると感じました。

そして資料5に記載されている2つの方向性については、コンパクトシティという小さなエリア内でさまざまなことを満たせる点が大事だと思います。

- 佐藤由美委員：

伊達市社会福祉協議会で把握している一人暮らしの高齢者は1,500人くらいおり、二人暮らし高齢者世帯が800世帯強です。このような世帯が増えるなかで、介護や医療の面から見ると、マンパワー不足になっています。また、看取りを考えると、成年後見人や終活の問題もあります。入居者を含めた皆様と一緒にやっていける体制があるとよいと思います。

住みたいと思えるか、という視点では、先日、山形県米沢市のシティマンションタイプのサービス付き高齢者住宅を見学しましたが、ペットとの同居やフィットネス施設といった新しいサービスを取り入れている施設でした。これらを含めて、入居者が自分の好きなことができるという要素があってもよいのではないかと感じました。そういった点も議論できればと思います。

- 森委員：

介護分野の人材不足については、切実な問題になっています。ヘルパーや生活支援が回らなくなってきたという課題を抱えています。首都圏の人が、高齢者施設になかなか入所できない、ケアの順番が回ってこないという不安を持ち、伊達市なら大丈夫だろうと思って来ていただいても、伊達市でも介護職員が不足しては話が違わないのではないかと感じてしまう恐れもありますので、受け入れ側の準備を考える必要があります。

もう1点、伊達市版 CCRC ではコミュニティ運営が1つの大きな柱になると考えられますが、受け入れる地域が、“来てもらった側”という意識を無くすことが重要だと思います。お客さんを受け入れますではなく、一緒にやっていく意識をつくり、サービスの提供者と利用者を区別しないほうがよいと思います。

資料6「今後の進め方」に、移住意向調査がありますが、受け入れる側の地域住民の意向調査をされる予定はありますか。

- 事務局（三菱総合研究所田村）：

意向調査という形では地域住民の方への調査を行う予定はありませんが、市民ワークショップで、地域住民の方の意見を伺うことを想定しております。移住希望者と地域住民の方が一緒に行うということは、現時点ではなかなか難しいと認識しております。

- 渡部委員：

東京の有楽町に、移住支援を行うふるさと回帰支援センターがあります。そこで実施した移住希望に関するアンケートでは、平成20年（2008年）頃に福島県は移住希望先ランキングの1位になったことがあります。しかし平成27年（2015年）は16位でした。その要因は、平成20年（2008年）頃は各自治体が移住に対する取組にそれほど注力していなかったということもあり、福島県にアドバンテージがあったと言えます。また、東日本大震災による影響もあります。最近、ランキングで上位に躍進しているのは、島根県や広島県、秋田県です。これらの自治体では、行政と移住希望者

の間で調整役を置くことや、洗練されたイメージ戦略を打ち出すことで、シニアだけでなく 30 代～40 代の新規顧客を獲得しています。福島県も、従来のやり方では魅力を浸透させることは難しく、斬新な手段を考えなければ他の自治体に負けてしまう恐れがあります。何が伊達市の魅力なのかということを、十分検討して打ち出す必要があります。これは伊達市だけではなく、福島県全体のイメージに関わることでありますので、広域連携が必要と思います。県北全体としてのイメージアップも必要でしょう。

- 牧田委員：

委員の 1 人として意見を述べさせていただきます。独立した地域に、住宅を集積させて作るというのは、かつての郊外の住宅団地のやり方です。そういうところには、同じようなライフステージで、同等の所得の人が集まります。そして、住民が高齢化すると、その子どもたちは地域を離れてしまう。CCRC は、そのサイクルが更に早いものと考えられます。どのくらいのスパンで考えるか、持続可能性という面を特に考える必要があると思います。

また、地元の住民から見ると、何だかよくわからないけどお金持ちの人が住んでいる、という程度の認識になってしまう懸念があります。そういった懸念を払拭できるような中身を検討することが必要になると思います。

以上で議事は終了します。長時間にわたりましたが、貴重なご意見をいただけたと思います。それでは進行を事務局にお返しします。

7. その他

- 事務局（長谷川）：

資料 6 に今後のスケジュールを記載しております。12 月に先進事例現地視察を予定しております。日程については調整いたしますので後日ご連絡いたします。視察先は、「ゆいま～る那須」か「オークフィールド八幡平」を予定しております。

- 事務局（佐藤時）：

質問などございませんでしょうか。

（質問なし）

- 事務局（宮崎）：

本日はたくさんのご意見をいただきましたが、本日の資料は分量も多いので、お気づきの点はメール等で事務局までご連絡いただければと思います。

8. 閉会

- 事務局（佐藤時）：

以上をもちまして生涯活躍のまち（伊達市版 CCRC）推進協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上